

平成24年3月13日

校内研修会アンケート結果

モラルアップ委員会



日時 平成24年3月12日（月） 午後1時から午後2時まで 場所 図書館
内容 「わいせつ・セクハラ」、「体罰」に関して、ロールプレイングを用いた研修

（主な感想）

- ・起こらないと思ってても、起きてしまうのが不祥事。起こさないようにしていなかないといけないと思った。
- ・注意として話をするだけより、ロールプレイを見せて、考えてもらう方が頭に残りやすいと感じた。
- ・小中学校では、ロールプレイやピアサポート、エンカウンターなどの授業を行っているので、先生方も研修している。
- ・教頭先生の綿密な準備が光る研修だった。くじの神様がいるのかなと思った（あたらなくてよかった。）。たいへん実のある研修だったと思います。
- ・普段から、セクハラ、体罰について、意識を持って生徒との対応をしていかなければならないと、改めて感じました。ロールプレイの場面設定は、なかなか難しいと思います。
- ・他の先生方の指導方法や考え方などが聞けて良かったです。わいせつ・セクハラ、体罰をしないように、日ごろから生徒とのやりとりに気をつけていかなければならないと感じました。
- ・どのように対応したらいいのか、まだよくわからないが、自分の立場を自覚することの重要さと、生徒の気持ちを考えることの大切さや難しさを改めて実感した。自分がまだまだ未熟であることを自覚して、他の先生の力をたくさん借りていきたいと思った。
- ・ロールプレイングの研修は、とても場面が想像しやすく、意見が出しやすい環境にあった。気をつけているつもりが、気をつけていない部分が見えたので、再認識できた。ありがとうございました。
- ・もっているネタの多い人が演じたのでよかった。自分があたらたらどうするかを考えながらみることができたので、勉強になった。とてもよい研修だと思う。ただし、素直な生徒だったからよいが、素直に従わない生徒もいるので、そちらの場合の指導例もみてみたかった。
- ・場面設定がとてもよかったと思います。普段起こりやすそうな場面で、考えやすかったで

す。進行もとてもよく、雰囲気もよかったと思います。今日、班で話し合っただけで一番印象に残ったことは、周りとの協力すること。一人ではなく、一丸となって指導をしていくことが大切だと思いました。

- ・ピアスの指導については、自分もこうするだろう、こうやっているな、という演技だったので、客観視できてよかった。ロールプレイはよかったが、実際のセクハラや体罰は深刻なものだと思う。具体的な事例紹介と、それに対する検討（グループごとの話し合い）でもよいのではないかな。
- ・ロールプレイング→グループ討議することにより、様々な意見に触れることができた。実際の現場では難しい場面もたくさんあるが、子ども、生徒たちをどのようにしたいのか、高校現場での役割とは何なのかということの主眼に置いて、指導していく必要があると感じた。
- ・ロールプレイ等、興味をもって学べる時間だったと思います。また、高校とは何か、教員とは何か等、原点から考え直そうと思いました。
- ・あまり、教師自身が感情を出し、頭ごなしに怒るのもよくないと感じた。悪いことだとわかってくれていると思うので、自分自身の感情をしっかりコントロールし、冷静に話す必要があると思った。また、話したことの無い生徒の場合、信頼関係も何もないので、より難しいと感じた。
- ・先生方の準備、ロールプレイ、ありがとうございました。自分だったらどうするか、どう対応するか、ドキドキしながら考えていました。生徒とのやりとりは日常のことで、一歩間違えたらと思うと、気を引き締めなければならないと思いました。
- ・あらためて、生徒との接し方については、よく考えて行動しなくてはならないということを感じた。生徒への対応は教員一人ではなく、複数で対応するよう心がけていきたい。
- ・ロールプレイング、3学年の職員の方から、具体的にどのように接するべきか、わかりやすく理解することができました。特に、なぜダメかという理由が大切なこと。また、対応も具体的なものがあり、参考にしたいと思いました。職員によるコミュニケーションのよさも大切なんだろうなと思いました。
- ・たいへんよかった。実際、生徒との対応には冷静さが必要であり、細かく説得させる指導法で、接する必要があると感じた。
- ・セクハラと体罰等について再確認できた。生徒との対応で、初期対応が大事なのだと感じた。上から抑えようとせず、ニコニコしながら生徒の胸に入るような言葉やしやべりが大事なのかな。
- ・講義形式でなく、ロールプレイを用いた職員研修でよかった。自分の感情的な指導を反省した一日となった。お世話になりました。
- ・どういうプロセスで、事故・事件につながるのかをよく知って、その入り口に立たないように注意することが大切だと思いました。そのためにも事例を自分に置き換えて考えてみることも必要だと改めて思いました。
- ・シチュエーションの設定があまりよくない。問題もしぼりきれていないため、問題点がはっきりしなかった。現実と直面することは、よりめんどうな状況なので、そういったときにどう対応するのか、学年での合意が必要であると考えます。複数の教員で対応するなどの原則の確認ができたのはよかった。

- ・ロールプレイをみると、よい指導、悪い指導等がみえるが、実際は相手のパターンが変わるので、思うとおりの指示になるのかと思う。自分の指導を振り返るよい機会となった。人の動きをみるのは勉強になった。
- ・してはいけないこと（わいせつ・セクハラ）、しなくてはいけないこと（生徒指導）の判断を誤らないように、生徒と接していくことの大切さを再認識できた。
- ・ベテランの先生の味のある口調や、生徒の気を引く対応の仕方を数多くみられるといいです。
- ・目の前の生徒をどれだけ指導していけるかが、大きな鍵を握ると思います。授業も、生徒の顔を見ないで行うのはどうかと思います。部活で使用しているところを調査してみてもどうか。
- ・体罰は、教師自身に関わるといったお話があった。生徒との関係を日ごろから作っていつての指導が必要。疲れていると危険。メールについては、情報を伝えるのに便利で使用してしまいやすいが、個人的な相談などにもなりやすく、危険も多いので気をつけたい。
- ・このような場で、多くの職員の想いや感じ方、考え方を知ることができ、とても参考になったと思う。自分だけの考えや、自分だけの力でとなると、プレッシャーもあるし、限界、そして誤った方向にも行きかねないと思う。チームとしての在り方が重要だと思えた時間でした。
- ・劇仕立てで、内容がわかりやすく、現実に近い状況で考えやすかった。グループの意見交換が、もっと長い方がよかったのでは。意見を出さずに時間切れになった人もいたので。セクハラについては、もっと深くしてほしい部分もあった。「こんなことも？」と思えることもセクハラになってしまうことが身近にあることを、もっと知らせる必要があると思いました。
- ・班別になり、職員間で話し合いがもてたのはよかった。ロールプレイによって、自分ならどう対応すべきか、考える機会となった。ピアスについては、日常的によくあるケースなので、参考になりました。
- ・具体的でわかりやすくよかったと思います。メールから発展していくことを知り、正直おどろきました。
- ・初任研とやった内容がだいたい同じでした。
- ・生徒に誤解を与えないような伝え方、言葉選びが大事だと感じました。
- ・セクハラ、パワハラについては、教員間のものも非常に多いと聞いているし、また、ニュース等で他県のも含めてみてきた。次回は、そのあたりについてやってみたらどうか。
- ・これが正しいという一つの指導方法はない。一人一人の生徒にあわせて、その生徒がどう伸びるのか、正しい道を選択できるか、考えて指導すべきである。教員が道を誤らないように、自己を管理することも必要である。
- ・生徒指導方法等について、教職員が意見交換することは必要であり、有意義なため、研修を継続すべきである。
- ・何事も深く考え、実行し、反省をもとに、その人らしく対応を考えていくしかないと思う。その中には、自分らしさを失わないことが大切で、うわつつらの言葉では、相手に伝わらないことを知る必要がある。
- ・生徒指導の参考になる研修だった。

- ・このことについて『考える』という場を設けるのはよいと思うが、果たして、これで教員のモラルが向上するかと言えば『？』です。
- ・日ごろより、いろいろな先生方の生徒指導をみることによって勉強になる。その場、その場で対応は異なるが、一線を譲らぬ強い姿勢が必要である。粘り強さ、根気強さが求められる職であるとおつくづく感じる。このような形の研修は初めてであり、いろいろと考えさせられる点もあった。
- ・生徒の指導をまじめに行っている先生ほど、このような場面にあう可能性があることがわかりました。
- ・ロールプレイは、職員研修で有効な手法であるので、導入を試みたことはよかった。不祥事については、学校という一つの単位で研修の機会を設けることが、防止につながっていくものと思われる。
- ・笑顔で進められたし、一つのテーマを皆が共有する時間をもてたことに意味があるのかも知れない。
- ・新聞記事等を見て、「またか」とうんざりしています。自分には関係ないとは思わずに、こういう機会を持つことで、相互確認できるので、よいと思います。
- ・ロールプレイングでは、実際に起きそうな場面がうまく設定されていた。自分だったらこうするというのと対比して、自分の指導を客観的に考える機会になった。
- ・指導する時、つい一人で抱え込んでしまうが、ピアスを預かる場合など、複数の教員での指導が大切であると感じた。また、メールで連絡する場合の注意点などがよく理解できた。
- ・ロールプレイをみながら、自分ならどのような動きをし、何を言うだろうと考えながらみていたが、すぐ応答が浮かばないときがあった。実際に指導中は何らかの対応をしなければならぬが、時にあやまりを含みつつになっていると思う。体罰は、その生徒との関わりの経過があるので、気をつけないといけないと思う。
- ・わいせつ・セクハラを未然に防止するための意識や注意について改めて確認できました。体罰のロールプレイをとおして知ったことについても、もう一度自分で考え、今後の指導に役立てていきたいと思います。
- ・メールは、つい生徒から、便利だと言い使ってしまうそうだが、連絡以外の内容に発展することもあるので、使わない方がよいことを再確認した。体罰も、つい感情が高ぶり、生徒との信頼関係をくずすような言動をとってしまう、暴力的になることもあり得る。気をつけるべきだと思った。
- ・教員によるロールプレイはよくない。内容によってもっと考えるべき。
- ・実際に演技してみることで、みて、話し合うことで、日ごろの自分の行動を振り返ることができた。どのくらい真剣に考えたかで、今後、不祥事は減っていくのだと思う。生徒を指導する立場であることを認識し、使命感をもつこと、同時に対等ではないが平等であり、一人の個人として認めて接することも必要であると感じた。